様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	9・開隆堂	第１学年 第２学年 第３学年	英語・728 英語・828 英語・928	SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3

取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　聞くこと 第１学年では、学校までの交通手段について聞いたり、インタビューをして知りたい情報を聞き取ったりする活動、第２学年では、相手の様子について聞いたり、図表を参考にしながら対話の内容を聞き取ったりする活動、第３学年では、相手に運動の仕方や演奏の仕方を聞いたり、日本の文化のスピーチ内容を聞き取ったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　話すこと 第１学年では、持ち物について尋ね合ったり、相手にできることやできないことについて質問したりする活動、第２学年では、相手が言った内容について質問や感想などを述べたり、将来の夢について発表したりする活動、第３学年では、有名人や歴史上の人物へのインタビュー番組を作ったり、日本の伝統行事や祭りを紹介したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○読むこと 第１学年では、物を紹介する文を読んだり、質問を考えながら自己紹介文の内容を読み取ったりする活動、第２学年では、インターネット上にある情報を読んだり、職場体験活動を終えたスピーチ文の内容を読み取ったりする活動、第３学年では、世界の伝統行事に関する文を読んだり、逸話の内容を読み取ったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○書くこと 第１学年では、自分や家族等を紹介する原稿を作成したり、人物のプロフィールをまとめたりする活動、第２学年では、自分の夢について書いたり、順序を整理しながら連休の思い出をまとめたりする活動、第３学年では、自分がなりたい職業について書いたり、順序を整理しながら連休の思い出をまとめたりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○知識・技能の習得、活用、探求への対応 「My Project」や「Special Project」において、第１学年では、自分が紹介したい人物についての情報をまとめ発表すること、第２学年では、場面、登場人物、話題を踏まえたスキットを作り発表すること、第３学年では、英語で料理のレシピを作ったり、卒業に向けてのメッセージを作成することなどの発展的な学習活動が取り上げられている。
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第１学年では、自分の好きなことを言ったり、相手に尋ねたりする活動の後に、自分が今していることや過去にしたことを述べたりする活動を取り扱い、第２学年では、予定や計画について対話したり、自分のしたいことを述べたりする活動の後に、議題に対して自分の立場を決めて、賛成や反対の理由を述べ合ったり、納得できる物を振り返り話し合ったりする活動を取り扱い、第３学年では、これまで経験したことを伝えたり、方法について尋ねたりする活動の後に、相手に感謝の気持ちを表したり、人や物について詳しく説明したりする活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○　内容の分量 第１学年～対話文は 27 ページ、説明文は 8 ページ、物語・劇は 4 ページ、手紙は１ページ、詩は 0 ページ、日記は１ページであり、総ページ数は 170 ページで、前回より約 4%減となっている。 第２学年～対話文は 23 ページ、説明文は 20 ページ、物語・劇は 6 ページ、手紙は 2 ページ、詩は 0 ページ、日記は 0 ページであり、総ページ数は 162 ページで、前回より約 2%減となっている。 第３学年～対話文は 14 ページ、説明文は 17 ページ、物語・劇は 21 ページ、手紙は 4 ページ、詩は 0 ページ、日記は 0 ページであり、総ページは 154 ページで、前回より約 3%減となっている。
使用上の配慮等	○　英語の歌を取り上げたり（全学年）、地理歴史や伝統文化に関する内容を取り上げたり（全学年）、巻末にはＣＡＮ－ＤＯリストに対応した評価ができる「英語で『できるようになったこと』リスト」を設け、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　文法事項をまとめた付録のページを設けたり、どの学年でも辞書を使う問題を取り上げたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　巻末に学習した単語と熟語（全学年）や音とつづり（第１学年）、不規則変化動詞活用表（第２・３学年）などのページを掲載したり、活動の幅を広げるための参考資料として示した「WordBox」を掲載するとともに、全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい配色にするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○　北海道と関連のある教材は、第２学年 Project など 5 箇所について取り上げられている。 ○　第１学年の冒頭では、小学校外国語活動の復習内容を取り入れ、小学校外国語活動との円滑な接続を第３学年の最後では、設問も英語で書くなど、高等学校英語科への発展を配慮したつくりになっている。 ○　PPP（Presentation, Practice, Production）の順に教材を配置し、学習の流れが分かるように、学ぶプロセスを大切にしたつくりになっている。